

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	障がい児通所支援事業所 きらら（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 6日		～ 令和8年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1人	(回答者数) 1人
○従業者評価実施期間	令和8年 3月6日		～ 令和8年 3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに寄り添い、丁寧な個別支援と子どもが安心して過ごせる居場所づくりを進めている。 また、保護者の相談や要望を受け止め、必要があれば関係機関とケース会議を開催したり、支援方法を共有している。	子ども一人ひとりの特性に応じた支援を大切にし、障がい特性や発達年齢に応じて、活動の内容や環境を調整している。発達段階に応じて個別課題や集団活動を組み合わせ、就学に向けて支援している。また、日々の様子を送迎時やLINEを活用して保護者にお伝えしている。活動や行事の様子は写真や動画でリアルタイムで知らせている。	子ども一人ひとりの発達特性に応じ、より成功体験を積み重ねられるようにプログラムを充実する。発達段階に応じてそれぞれが自分のペースで取り組めるよう配慮していく。また、今後もこども園や関係機関等とは、保護者の要望に応じて連絡を取り合い情報共有していく。
2	資格保有者を配置できている。そのため、各分野の専門性を活かした個別・集団療育を実施することができている。	保育士・介護福祉士、児童指導員等、有資格者が多数在中している。それぞれの専門分野を活かしながら、支援を実施することができている。また、外部研修を充実し、全職員に研修報告として情報伝達を行うことで、新たな視点での知識習得・支援の資質向上を図ることができる。	今後も職員の積極的な研修や勉強会の機会を継続して設け、職員一人ひとりのスキルの向上を目指し、支援や療育の質の向上に繋げていく。
3	同じ敷地内に就労支援施設が隣接している。カフェでの買い物体験やイベントへの参加等を通して、地域の方との触れ合いや地域の子ども達と関わる機会を設けている。	カフェでの昼食、買い物を通して、社会で必要なマナーやルールを身につけることができる。また、月に1回、同法人内で開催しているイベントの案内を配布し、地域との交流の場を情報提供している。	出前講座等で、地域の社会資源、人材資源を積極的に活用し、様々な活動を体験できる場を提供する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ない。	今年度は、保護者支援として保護者座談会を実施したが、家庭や就労の都合で参加できる保護者が少なかった。また、集団ではなく、個別で相談のってほしい保護者もあり、保護者同士の交流に消極的な方もいる。内容を検討する必要がある。	保護者同士の交流に積極的な方と消極的な方がいる。保護者の要望を確認する中で必要性が分かっているため、出席率や実施内容、必要性を改めて確認し、今後の開催を検討していく。
2	活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を保護者に発信しているが、十分できているとはいえない。 事故対応、災害対応等の緊急時対応マニュアルは整っており、研修や訓練も実施しているが、保護者の方への情報発信や周知が十分とはいえない。	活動や行事の様子等はLINEを使用して定期的に保護者に報告している。LINEは保護者の方も普段から使用しているため、連絡がとりやすく便利である。しかし、公式HPで掲載している事業所の活動内容や行事報告等は、あまり周知されていない。発信形態や内容を見直す必要がある。 また、契約時や計画書作成の際に、緊急時対応マニュアルや安全計画についての情報はお伝えしているが、設備の案内や日々の安全管理については分かりにくい面もある。	現在、公式HPで年に3回、事業所の活動内容や行事報告は掲載している。HPを更新した際に、その情報を閲覧してもらえるよう保護者に情報を発信する。 災害訓練実施時には、事前に行事予定として案内はしているが、どのように実施したかを写真や動画で明確に伝えるようにする。
3	職員の配置基準は満たしているが、男性職員がいない。	資格保持者は多数在中し、職員の配置基準も満たしている。しかし、男性職員がいない。思春期のメンタルケア、身体的介助等で同性介助が難しい。	業務内容や働き方、地域性などを踏まえ求人活動を継続して行う。また、同法人内でサポートできる環境をさらに充実させることで、男性職員の配置も検討する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 障がい児通所支援事業所 きらら

公表日 令和8年3月19日

利用児童数

1

回収数

1

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1					
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1					

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1			まだ通所を始めて少ししか経っていないが、子どもは利用を楽しみにしている。今後も、個別に配慮できる部分は個別支援をお願いしたい。	お子様の特性や発達状況に応じて、様々な面から支援を実施していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名	障がい児通所支援事業所 きらら		公表日		年	月	日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・感染症が流行している時期は、部屋を分散して過ごしている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・必要に応じて個別対応を行っている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・バリアフリーになっており、車いすでも移動しやすい。静養室は個室になっているので、体調の悪い児童やクールダウンしたい児童には配慮している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日掃除を分担して行っている。定期的に物品や環境の見直し点検を行っている。 ・毎日清掃を行い、定期的に道具や設備の点検を実施し、環境を整えている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・子どもの体調不良やクールダウン等、状況を見て使用している。 ・子どもの体調や状況を見ながら、必要に応じて個別の部屋や場所を使用している。 ・不穏な児童や体調の悪い児童には、個別の部屋を提供している。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・評価表の結果を基に話し合い、業務改善につなげている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・定期的に会議を行ったり、必要に応じてその都度、職員間で話し合い、改善を行っている。 ・職員会議やその他会議でその時の気になる児童のことや業務のことを話す機会がある。 ・朝礼や各会議の場で意見を出し合い、業務改善につなげている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・法人内で受ける研修以外にも県内で開催している研修を定期的に紹介してくれるので、興味があるものは受講している。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・ホームページで公表している。 ・ホームページで公表し、保護者へ情報提供している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		・職員間で日々の様子を共有しあい、子どもと保護者のニーズを擦り合わせて作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・職員間で情報を共有し、話し合い、計画を検討している。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・個別支援計画等策定検討委員会で、全職員にこれからの目標や支援方法を共通理解している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6					

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動は担当を日替わりで回しており、様々な視点から活動を実施できるようにしている。 ・日替わりで活動プログラムを考え、実施している。 ・各自アイデアを出し合っ、日替わりでプログラムを組んでいる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や発達特性によって活動内容や組み合わせを検討している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、朝礼を行い、一日の予定や報告等を伝達し情報共有している。 ・毎日、朝礼でその日の活動や役割、前日の子どもの様子等を情報共有している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・次の日の朝礼で振り返ることができている。 ・気になること等は当日報告しているが、翌日の朝礼でも情報共有、対応策等の話し合いを行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援は記録し、状況によって記録を見て振り返りや改善点を検討する。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・半年に1回モニタリングを実施している。 ・半年に1回は必ずモニタリングを行っている。 	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・学校や保健所等の関係機関とは連携し、必要に応じてケース会議を行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6			

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	・同法人内で開催されているフェアに参加することで、地域の他のこどもと接する機会がある。 ・月1回のイベントの日に、地域の子ども達と活動をする場を設けている。 ・イベント等で子どもたちと一緒に交流する機会を設けている。	・園との交流はできていないが、地域の中で他のこどもと話す活動をする機会が月に1回のイベントの時にある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・聞き取りの際に子どもと一緒にその場に入り、話し合いを行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	・保護者座談会を開催した。	・保護者同士、きょうだい同士での交流はできていない。 ・保護者同士での交流に対して、消極的な方もいる。内容を検討する必要がある。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・毎月活動プログラムを発信している。また、行事報告や年間の行事内容等はホームページに公開している。 ・年に3回、ホームページに活動の様子を載せている。また、LINEで活動予定や行事予定を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・できるだけ分かりやすく、誤解のないような伝え方を心がけている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		・月に1回イベントを開催している。		
非常時等の	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		・それぞれ研修や訓練、マニュアルの見直し等を定期的実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・職員訓練や児童も一緒に参加する避難訓練等を定期的に行っている。 ・定期的に職員、子どもも含めて訓練を実施し、意識の向上に努めている。 ・法人で統一して、非常災害に関する訓練や研修、またBCP訓練や研修を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		・医師からの指示書ではないが、ご家族からアレルギーの結果や要望等を提供していただき、対応を行っている。 ・年度初めに全児童のアレルギーについて保護者にお聞きしている。	

対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・研修や訓練の際に安全管理の見直しや確認、改善点等を話し合い、日々の支援の中でも意識付けている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・毎月、リスクマネジメント検討委員会で話し合いを行っている。急を要する事例は朝礼ですぐに対応している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・定期的に研修を行い、虐待防止に向けた知識や理解を深めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			